

調査結果の概要

1 国語

全体的な傾向

- ・国語A（知識）の平均正答率は、すべての区分で全国と比べて高い。また、市の平均正答率に比べても「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」がやや高いであったが、その他はすべて高い。
- ・国語B（活用）もすべての区分で全国、市より高い。

国語に関する生徒質問紙調査の状況

●…課題があるもの

《傾向》

- 国語に関する質問では「国語の授業の内容はよくわかりますか」という質問以外は、すべての回答の割合が全国平均と比べて高い。
- 特に「読書は好きですか」という質問に関しては、全国平均よりかなり高い数字を示している。
- 「国語の授業の内容はよくわかりますか」という質問に対しての回答は、わずかではあるが全国平均を下回った。

指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

- ・目的や場に応じた話ができるように意識づけをしていきたい。また、場に応じた会話の仕方を学ばせたい。

【書くこと】

- ・目的に応じた表現を作文の場を多く設定することで促したい。特に、文章の比較をさせたり、意見文を書く際に根拠を明確にして書く習慣をつけさせたい。

【読むこと】

- ・さまざまな文章を意図的に提示することで、読む機会と読み取り方の指導を工夫していきたい。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・漢字や語句の定着を小テストや取り上げ指導を継続することで、確実にしたい。

【その他】

- ・実生活で生きて働く国語力を身に付けさせるために、幅広い読書を促し、量だけでなく質の向上も図りたい。

2 数学

全体的な傾向

- ・数学 A（知識）の平均正答率は、資料の活用において全国平均をわずかに下回ったが、その他の領域では高い結果であった。
- ・数学 B（活用）の平均正答率は、すべての領域で高かった。また、数学的な技能の観点で全国平均を下回ったが、その他の観点では高い結果であった。

数学に関する生徒質問紙調査の状況

《傾向》

- 数学に関するほとんどの質問において、肯定的な回答の割合は全国平均と比べて高い。
- 「授業の内容はよく分かりますか」という質問では全国平均よりもわずかに低い。

指導改善のポイント

【数と式】

- ・基本的な計算の確実な定着を図るために、反復練習の充実を図る。また、文字を利用することの良さを実感させるために、文字の表す意味を考えたり、文字式の意味を読みとったりする活動の一層の充実を図り、与えられた情報を文字を使って表す技能を伸ばす。

【図形】

- ・証明の必要性と意味を理解できるようにするために、条件に合う図形を生徒一人一人がかき、条件を満たす図形は無数にあり、それらは1つを証明できれば他の全てが成り立つことを実感できるような指導の工夫をする。
- ・合同条件や相似条件、その他の定理などをカード等で黒板に掲示するなど、どんな定理が使えるのかを明確にする。

【関数】

- ・式と表とグラフを、別々に扱うのではなく、式から表やグラフ、表から式やグラフ、グラフから式や表がかけられるように、それぞれの関係を意識しながら指導していく。

【資料の活用】

- ・事象を数学的に解釈することができるようにするために、代表値やヒストグラムの特徴をとらえ、それが何を意味しているのかを説明し合う学習を取り入れていく。

3 生徒質問紙調査

《傾向》

- 「家で、学校の授業の復習をしていますか」という質問に、「している（どちらかといえばしている）」と答えた生徒の割合は、全国平均をかなり上回っている。
- 「読書は好きですか」という質問に、「好き（どちらかといえば好き）」と答えた生徒の割合は、全国平均をかなり上回っている。
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」という質問に、「参加したことがある」と答えた生徒の割合は、全国平均をかなり上回っている。
- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」、また「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか」という質問に、「難しいと思う（どちらかといえば難しいと思う）」と答えた生徒の割合は、それぞれ全国平均を下回っている。